



武藏野夜話  
 源氏物語  
 一七のてら  
 ともさか

中村俊定文庫  
 文庫 18  
 292  
 1





お佐

涼信稿



沖可月十日あはれにむすし即の冬折紙端々寄居  
 の里者言まふにやとすとすあし一雙をふちりてのこ  
 久しく凡雑紙好中止ま友に伊山あまゝ魚圖あま  
 々々々蕪門に花紙をいまりくふけに偷取く  
 沖可の日記よこらあれとくはま友其の針糸はくしき  
 一くし附かりて紙をうつくせんと多くと尺紙の扇に  
 ちるぬ今言ハ伊山のやあし一とち伊山附き

此向のむとく 一 雖も此向 妻母乃 行て七名ハ 辨  
乃 備ありヤ 予 答ク 一 又 同 名 の 行 一 は 余 也  
予 曰 一 乃 尺 亦 如 一 と 宗 隨 身 一 一 乃 名 也  
海 也 亦 一 乃 亡 命 乃 故 亦 明 一 乃 一 一 あり 一 乃  
以 乃 凡 事 成 一 乃 人 一 乃 教 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃  
一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃  
御 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃  
隨 宜 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

附に味あう一と茶乃乃 摺如く又 出らるは 鱗がち  
一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃  
毒乃 害あらん 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃  
ねけりか 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃  
乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃  
あ 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃  
ぬ 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃  
場 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

小振小柑乃人ありひねり予を引つ公按路に  
同ありれむる日ある路は尺あり評論  
よのう乃他ひあるよのうなる乃味との  
をめれ公者とれゆ林修に一任す予兼多要乃  
其一べきいとふしり

伊山向くりく尺あり公按路に  
此れよりこれい葉ととゆひまきくけき  
けあくとこれい公按路は尺あり評論  
はあくとこれい公按路は尺あり評論

按路に尺あり公按路に  
並修路のち時余筆に尺あり公按路に  
高う至とと二尺あり公按路に  
ゆらゆらとゆらゆらとゆらゆらとゆらゆらと  
餘論これとこれとこれとこれとこれとこれと  
これとこれとこれとこれとこれとこれとこれと  
この途言に白きと捨ち公按路に尺あり  
公按路に尺あり公按路に尺あり公按路に尺あり  
細大も強弱

もこもろんらんらんあーさーあのおのふかぢあに  
及いまう付くふろふはまらぬたをけぢま玉  
時をけぢらんふあぢあにけぢあにまらぬのあぢあ  
まらぬのあぢあにけぢあにけぢあに

かくのこつこつあぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ

きんあぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ

あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ

あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ  
あぢああぢああぢああぢああぢああぢああぢあ

寄ぬと云く

あゝと云くはるるをさるる

屋はく架くはるる乃云

是はと云く糸糸もなれと云く上りくすの御

ちやと云くかたのむかひと云く一巻乃

けと云くはるるはるるはるるはるる

と云く是の糸糸もなれと云く上りくすの御

けと云くはるるはるるはるるはるる

の柄と云くはるるはるるはるる

接観と云くはるるはるるはるる

ねと云くはるるはるるはるる

けと云くはるるはるるはるる

けと云くはるるはるるはるる

あゝと云くはるるはるるはるる

けと云くはるるはるるはるる

寄ぬと云くはるるはるるはるる

そのおきらふとまじや

しやうしやうとまじや舟乃ちあや

のつていふれ"そのまじやのまじや公欠いとくに  
はるやうけやまじや一伴ありやまじやにまじや  
すまじや二の向うまじやけのまじや公欠いとくに  
其公欠まじや付しやうまじやあやまじやとまじや  
まじやあやまじやまじやまじやまじやまじやまじや  
まじやまじや

海からと塘と町よりかき

けりまじやのまじやまじやまじやまじやまじや  
まじやまじやまじやまじやまじやまじやまじや  
まじやまじやまじやまじやまじやまじやまじや

敵の痛々まじやまじや

是物路々各まじやまじやまじやまじやまじや  
あまじやのまじやあまじやまじやまじやまじや  
けりまじやまじやまじやまじやまじやまじやまじや

明眼の判者にあらずんば、一席の御座、  
ちんはあ、一、又同志のねにあら、何や判者  
論、宗匠のむす、い、ち、舟の、  
乃、  
あ、  
此、  
平、  
他、

け、  
と、  
り、  
修、  
ち、  
柄、  
い、  
又、  
ア、





乃茶活らるるにふたねてふにふたねてふにふた  
はふふの利を明ん中々に故人とソるるに  
唯  
唯、他物のにけりて

各向各のは又括りりてあつてふつふやや日  
りりれは括におうるるに先論ははははの以  
るるはてて各句の論はりてててて  
又也ててはのあやびつくあやう目茶の益  
とけらるる

あてにらるるあての海やあての海

是いやのるるるるるるるるるるるるるるるるる  
の辞可く用るるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
唯るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
他物の大に用るるるるるるるるるるるるるるるる  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

月のら矢の一節やけしむら

是とよき世の心節く矢の一夢とすむら  
くちや上野の夢歌はあひも〜又さかたの  
一節にふく一夢のこころを〜一節にこ〜  
くそあひ〜認められぬがつけく梅七  
牧子ときか〜と〜一節のよき心持  
又あら〜はの節〜ま〜さ〜  
ふむ花園の夢のさけりと〜

風やこすれ〜さ〜り〜

涼塔

志くれのお〜心〜

雙鳥

飄々の上た〜後あきて

伊山

りり〜からにめさ〜

魚田

响に〜夢の心は〜

お

一節 絶〜村おや〜

壱

け〜ふ〜月よか〜

園

女の〜は〜

山

志のわたりをくさすの空々しく  
乃てみやけと仕立小坊子  
山園のぬけくげ嘘に嫁のそ  
寺加係や事候たつや  
糸山を乃あつる以い着やす  
かき遊人と  
音くに伝ふ蓋の力も癒くや  
書きたりしからのうか 系向

塔 山 園 山 塔 園 山 塔

いふふく解の園もみあし  
一字あはしるや女所かや  
帆けらに急ぎあてんくすや  
空のあき音も道政を越  
探題は柳とかゆの樹乃と  
大ら乱よき山人の白き汗  
お好に木換もそろあつて  
種も扇もあつたあつた

山 塔 園 山 塔 園 山 塔

遠のうに乳とおぼしけり  
はあやうく兵ハちれ  
お白とおぼすも何のね  
予は坊おろし多程は持る  
まやのつうやすくと悟あり  
飯り持し中持くわく管  
閑帳のあう明けられ  
糸くてもあなうんて出せ

園 塔 山 塔 山 園

仙病とつはひまも人の死  
あにかすくこ味せんう  
いきてうあ石のうい  
合飲も一筆にさめる  
鬼灯は新理の層一層  
み乃ともあ上下乃袖  
追れおあさく猶ありく  
口伝乃ねもあ代とあ

園 山 園 山 園 山

頃けひるてめしとすむ不破の備  
大坂と登乃下り埋火  
所て春謀政符に研くはアヤ  
神の首中と有様乃致  
相頭の中々びくれいふ所くま  
浮葉始やうめくふくま  
けちハ身も可いけし明はく  
れのくりにるくあつたふ  
備 坂 山 園 山 園 山 園

おもと一輪足きくられもまた  
船室の船れあふくま  
おほろねを明てと通ぬの目と  
くねぬくやの道山  
卯てやふ飯下るうくつたえ  
二月の終く暮れをひく  
踏こむく宮八田神社に面やう  
那智のくよの所里こころ  
備 坂 山 園 山 園 山 園

学問は欲のつく時ありしるの  
蟬 一々 折つ次の居眠  
長刀此牙子ひき後よりんを  
たきれと何とて苦み多りぬ  
細豆のこちりハるの月  
里の糸糸は年よやくやく  
ちよとちよとてわねぬいふは  
やう 仲人のりびニハかひ

筑 園 山 塔 園 山 石

白ふりの短けい 簾もほふあけく  
いよとせつ々 あちし物也  
あんなは毎に吹ちる響の音  
月ひつふかぬけぬる  
あつ付と針有ふとて 帯  
葉の匠はさきへのけし  
今頃乃のんちとて乃をさみ  
あま馬のぬはあふふきん

園 塔 山 園 山 石

暑いやはあふよへうちは草部  
 下の白はるき急しくあは  
 灼明を舟の用もさつとら  
 ちく捨ひ子とりやくすゝあ  
 秋そのめくは月口もあ 車  
 口の氷も解く中 天ハ  
 万の志似し葉子並明くあ  
 黒い風とけれぬ甲子  
 山 岡 塔 山 塔 岡 山

改舌にるあかたさく静く  
 ぶあうそ目ぬくあ  
 傍う唇不肖く捲くひあ  
 正白くハありのあ中  
 菽越しをさ一陽一川とる  
 くすう箱やち松灯う  
 欠るも秋鼻くくのせくゆ  
 あらの紋りとさくわ下  
 山 岡 塔 山 塔 岡 山



摺紙、隠逸う草と葉うう  
 何こいひる友をうう男  
 和た師匠の寸紙紙をけうを  
 月漢かえはすはよのあ  
 合次を基礎紙足くもの毒  
 折紙紙の具紙つけく何紙  
 折紙よ去りく方紙、彩ーん  
 富士の着るくはあ紙紙  
 塔 山 塔 山 塔 山 塔

折紙よけ津紙紙うう紙うう  
 鴨とすき紙 踏んうかて紙  
 舟と紙うう米紙とやうう紙紙  
 山宮の夕紙紙笑山や紙紙  
 山 塔 山 塔 山

追加

折紙と紙と紙に紙や紙紙紙  
 山紙や紙紙紙紙紙紙紙紙  
 折紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙  
 山 塔 山 塔 山 塔 山 塔

定ん目のきうふあまのしるし  
 葉ハ枝くまにり葉とあふ  
 暮目もほくちや白鷺みど  
 しくいこのかりに解あおる  
 頬あふよ〜〜あふつけあ  
 あ〜や女たち〜たちすけ  
 さ〜あやあ〜あ〜あ〜あ〜あ  
 りあやあ〜あ〜あ〜あ〜あ

南島  
 秋年  
 和鳴  
 三楚  
 冠子  
 相系  
 清河  
 榮草

ありらさよに〜〜あ〜あ  
 芋もはいとふあやあ乃月  
 人音〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
 鱈のあ〜あ〜あ〜あ〜あ  
 ねあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
 中あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
 人中あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
 橋あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

南島  
 秋年  
 和鳴  
 三楚  
 冠子  
 相系  
 清河  
 榮草

ありくを梅乃 足らぬりそのも  
 灌師や念に牛とあり 清のあま  
 之りかにくくめてるや 梅乃を  
 松波の影 波かくくやあーのど  
 松一ア吹くく 塚のふゆふれ  
 白土にさかくふ 夢や 柳の夜  
 家れの一や ゆふい 田く 柳

石上  
 可登  
 丁路  
 庚岡  
 伊山  
 雙鳥  
 涼塔



近字子成后仲春

書

江戸日本橋南二丁目  
 同根草並木町  
 梅村彌市  
 江戸原五之助  
 井筒屋三條上

